

小野 醍醐 日野



山科区の小野は小野小町ゆかりの隨心院が知られ、伏見区の醍醐は「豊臣秀吉の醍醐の花見」で有名な世界遺産に登録された醍醐寺があることで知られています。ここは山上の上醍醐と麓の下醍醐の伽藍まで広大な寺域に、平安時代からの国宝や重要文化財が残され、数多くの歴史的遺産を見るすることができます。また、日野は藤原北家の日野氏から出た親鸞生誕の聖地として知られます。この地図は地下鉄小野駅から石田駅まで、小野、醍醐、日野地区を歩き、歴史にゆかりのある見所を紹介するコースとしています。



小野



大玄関から見る棊門

能の間と書院



はねず梅

① 隨心院

真言宗善通寺派の大本山。991年に僧仁海(にんがい)が建立した曼荼羅寺(まんだらじ)が始まりで、五世・増俊(ぞうしゅん)の時に隨心院が建立されました。小野門跡ともいいます。周辺は小野氏が栄えた地であり、ここは歌人・小野小町ゆかりの地と言われます。総門を入った横に、色の名から「唐棣(はねず)の梅」とも呼ばれる薄紅の遅咲き梅を主体にする「名勝 小野梅園」があります。

能の間から見る庭園

能の間と書院



小野歌碑



化粧井戸

文塚

醍醐

② 醍醐寺(世界遺産)

真言宗醍醐寺派の総本山で世界遺産です。山上の上醍醐と山下の下醍醐からなる壮大な寺で、多くの国宝や重要文化財を所有します。その歴史は平安時代初期に聖宝(じょうぼう)が上醍醐に草庵を設けたことに始ります。後に准胝堂(じゅんていどう)、如意輪堂(にょいりんどう)(重要文化財)が建立され、醍醐天皇の勅願寺となり、薬師堂(国宝)ほか堂宇が建ち、引き続き下醍醐に伽藍が整備されてきました。応仁・文明の乱の戦火により、下醍醐は五重塔(国宝)を残しそして焼失しましたが、豊臣秀吉の援助をうけ復興し、1598年には盛大な花見の宴が催されました。年中行事に「五大力さん」や「豊公花見行列」などがあります。



境内全域(史跡名勝) 西大門(府登録文化財)



三宝院

醍醐寺の塔頭。国の特別史跡・特別名勝の醍醐三宝院庭園は、豊臣秀吉自らが「醍醐の花見」の際に基本設計をした庭で、当時の華やかさを伝えます。三宝院は建造物の大半が重要文化財であり、中でも庭園全体を見渡せる「書院」は桃山時代の寝殿造り様式で、「唐門」とともに国宝です。



唐門(国宝)

五重塔(国宝)

平安時代に醍醐天皇の菩提を弔うため建造された国宝の五重塔は、府内に現存する最古の木造建築物です。初重内部の両界曼荼羅壁画も、塔本体とは別に絵画として国宝に指定されています。



金堂(国宝)

金堂(国宝)

平安時代後期の建立で、醍醐寺の本堂です。戦乱により二度焼失し、現在の金堂は豊臣秀吉の命により紀州(和歌山県)の湯浅から移築したものです。鎌倉時代の作、本尊薬師三尊像(重要文化財)を安置しています。

金堂(国宝)

薬師堂(国宝)

醍醐天皇の発願にて建立。上醍醐唯一の平安時代の遺構です。本尊の薬師如来および両脇侍像(国宝)は、現在下醍醐の靈宝館に移されています。



薬師堂(国宝)

如意輪堂(重要文化財)

聖宝が自ら刻んだ如意輪觀音を祀っていた御堂です。再三の焼失に遭い、現在の如意輪堂は豊臣秀頼により再建されました。



如意輪堂(重要文化財)

醍醐寺周辺の町並み

醍醐寺周辺には、江戸時代から明治時代初期にかけて建てられた屋敷が今も残ります。

歌人・太田垣蓮月(おおたがきれんげつ)が晩年の数年を過ごした住居(市指定景観重要建造物)があり、旧家の雰囲気が維持されています。



太田垣蓮月(かぐわ)跡

日野

④ 法界寺

日野薬師、乳薬師と称される日野家の菩提寺。薬師堂(重要文化財)には開基・最澄作の薬師像を胎内に納めた薬師如来像(重要文化財・秘仏)が置かれ、安産・授乳祈願にご利益があるとされます。国宝の阿弥陀堂内には定朝作といわれる阿弥陀如来坐像(国宝)が安置されています。正月14日には「日野の裸踊り(市登録無形民俗文化財)」が行われています。



キリスト教灯籠

親鸞

親鸞聖人は鎌倉時代前期～中期の浄土真宗の宗祖で、日野の地に生誕と伝わります。出家して法然の弟子となりました。日野家墓所には、親鸞の父・日野有範や母・吉光女ほか日野家の人々が眠ります。

⑤ 萱尾神社

日野村の産土神で、江戸時代までは法界寺の鎮守社でした。境内には、珍しいカリシタン灯籠があります。



鴨長明方丈石

鎌倉時代前期の歌人、鴨長明(かものちょうめい)が隠棲して、随筆『方丈記』を記した草庵跡とされる巨岩が萱尾神社東の山中にあります。方丈の庵は下鴨神社(左京区)摂社の河合神社境内に復元されています。



方丈庵(復元)

小野 醍醐 日野



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所



京都市考古資料館

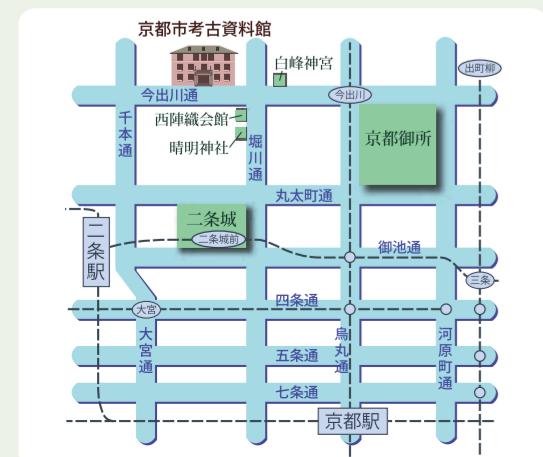
大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパーソンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1

TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/

入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)

JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス 201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



小野 醍醐 日野周辺の発掘調査

小野 醍醐 日野は京都市内の東南にあたり山科区と伏見区に位置しています。醍醐の山地西麓沿いには、古代から大和と近江を繋ぐ旧奈良街道が南北に走り、並行するように西側には山科川が貫流しています。地区北部の街道沿いにある小野地区には、平安時代中期に創建された隨心院が、その東部に広がる醍醐地区には醍醐山上に平安時代前期に御堂が建てられたことに始まる、醍醐寺境内が広がっています。五重塔を除く建物は応仁・文明の乱により焼失し、慶長年間(1596~1615)、豊臣氏の支援により再興されました。最南に位置する日野地区には、藤原氏一族の日野家山荘跡地があり平安時代後期に建立された法界寺など寺社の多いところです。周辺の発掘調査は醍醐地区北部で行われた醍醐古墳群の発掘調査では、耳塚古墳と呼ばれる大型円墳と19基の方墳からなる特徴をもった古墳時代後期末の古墳群であることがわかりました。醍醐廃寺をはじめ史跡醍醐寺境内などの発掘調査も行われ、飛鳥時代の溝や醍醐寺の子院跡などが発見されています。また、醍醐寺三宝院庭園の発掘調査では、池の護岸の様子などが明らかになりました。日野地区的発掘調査では、縄文時代から室町時代にわたる日野寺町遺跡が発見されています。

① 醍醐古墳群

醍醐古墳群は醍醐山西麓から突き出した舌状の台地南東の斜面に総数20基の古墳が営まれています。1979年から86年にかけ数回の発掘調査が行われ、円墳1基と方墳19基からなり、内部の主体は横穴式石室で、小石室もありました。石室内から土器や刀子(とうす)などの鉄製品、金・銀環などの副葬品が見つかりました。「耳塚古墳」と呼ばれる1号墳は直径約25mの円墳で、2基の石室を持ち群中では最大のものです。他の方墳は11号墳の一辺が12.5mを最大とする比較的小型のものです。1号墳は6世紀後半に、他の古墳は7世紀初めに造られたことが明らかになりました。



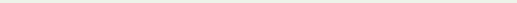
醍醐古墳群の遠景



耳塚古墳と呼ばれる墳丘上に設けられた石室



石室から出土した金環と銀環



石室から出土した須恵器高壺

②③④ 醍醐廃寺

山科川の左岸に位置した茶畠で、昭和初期に白鳳時代の瓦や土器が採集されたことから寺院跡と推定し、地名から「醍醐廃寺」という遺跡名が付けられました。1996年~1999年にかけて市営住宅団地の建設工事に伴う試掘・発掘調査が実施されました。調査の範囲である丘陵部は、すでに旧市営住宅建設時に大半が削平されましたが、東丘陵斜面では飛鳥時代から平安時代の土器や瓦が含まれた溝跡、平安時代後期から鎌倉時代の築地跡や建物、中世の堀跡などが発見されました。築地跡や建物跡は、文献や地名などから醍醐寺の子院「越智堂(えちどう)」跡とみられています。

発掘調査の様子
(子院跡)

築地の基礎とみられる石列と側溝跡

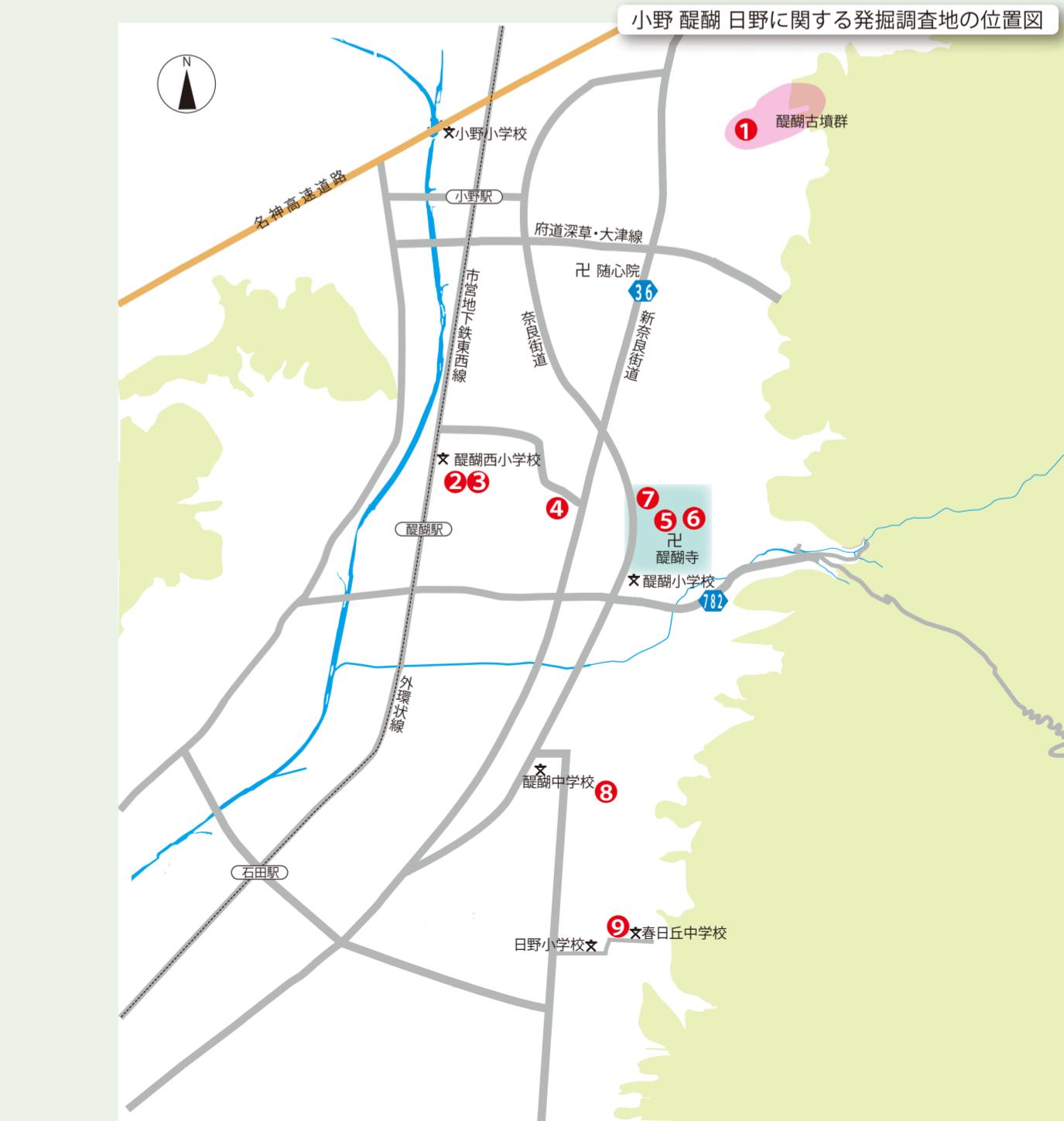
中世の堀跡(中央の溝)

⑤⑥ 史跡醍醐寺境内

醍醐寺は平安時代前期にはじまる真言宗の寺院です。寺は上醍醐(山上)と下醍醐(山下)に大きく分かれます。上醍醐は貞觀(じょうがん)十六年(874)頃、聖宝(じょうぼう)により創建されました。10世紀の中頃には、下醍醐に釈迦堂や五重塔からなる伽藍が造営されました。今も残る五重塔は大修理を受けながらも、当時の姿を今に伝えています。平安時代後期には白河上皇や源氏による御堂の造営が盛んに行われ、三宝院や大智院などの子院が周辺に数多く建てられました。その後、一時期衰退しましたが、桃山時代にいたり、豊臣家の庇護のもと再び活況を呈し、三宝院書院や庭園が現在に伝わっています。発掘調査は1975年から始まりました。近年では1997年に宝聚院(寶聚院)の建設工事に伴う発掘調査で平安時代後期の建物跡や瓦が発見され、文献史料や指図から醍醐寺下伽藍の子院「大智院」の跡とみられています。また同年の醍醐寺新伝法学院の建設に伴う発掘調査では、平安時代後期から鎌倉時代の建物跡や築地の基礎跡が発見され、子院「妙法院」の跡とみられています。



建物跡(平安時代後期)



資料提供：財団法人京都市埋蔵文化財研究所

⑦ 特別史跡・特別名勝 醍醐寺三宝院庭園

醍醐寺の子院の一つ三宝院は、本坊的な存在で、創建は平安時代後期といわれています。表書院の南に広かる庭園は桃山時代から江戸時代前期にかけて大改修され、池泉回遊式庭園に改められました。1952年には特別史跡・特別名勝に指定されています。2002年から2009年にかけて修復工事に伴う発掘調査が行われました。池は前身となる室町時代の池をさらに掘り下げ、造り直されていました。場所によっては1.5mの深さとなり、護岸石の下に小ぶりな石を積み上げて支える特殊な工法で護岸が造られていました。



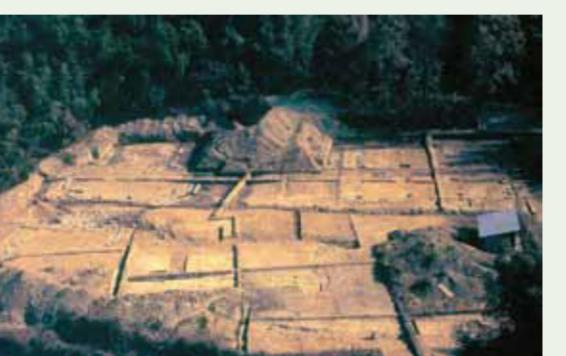
醍醐寺三宝院庭園



醍醐寺三宝院庭園

⑧ 史跡醍醐寺境内(柏杜遺跡)

柏杜遺跡は、源師行(もろゆき)によって久寿二年(1155)に建立された醍醐寺の子院です。1973~2002~2005年に発掘調査が行われました。南北に2棟の建物と庭園跡が発見されました。南側の建物は平面形が方形でしたが、北側の1棟は八角形でした。建物跡は「柏杜堂」の八角円堂・方形堂跡であることがわかりました。また後年、三重塔の基壇跡も発見され、建築材や瓦、土器、輸入陶器、鉄製品なども見つかっています。鉄製品には寺院の塔の屋根に吊るす風鐸(ふうとう)と中の打棒の下に付く飾り板の風招(ふうしょう)がいずれも破片で出土しています。現在、出土品は市有形文化財に、遺跡は国の史跡に指定され保存されています。



1973年の柏杜遺跡の発掘調査遠景



三重塔基壇跡と周囲に散乱する瓦



屋根の四隅に吊す鉄製の風鐸片(上)と風招片(下)



史跡指定され保存されている柏杜遺跡

⑨ 日野谷寺町遺跡

日野谷寺町遺跡は、醍醐山西麓から西側に広がる丘陵の末端扇状地に立地する縄文時代から室町時代の遺跡です。1984年に春日丘中学校新設に伴う発掘調査が行われ、奈良時代の建物跡9棟が整然と並んで見つかりました。西側には古代から続く旧奈良街道が通っていることなどから、役所的な遺跡と考えられています。また、縄文時代中期から後期の土坑群、炉跡などや分型土偶と呼ばれる分型の土製品も見つかりました。



奈良時代の建物跡



縄文時代の炉跡や土坑群



分型土偶 左が表 右が裏